

ノーモア・ヒバクシャ通信 第53号

2020年11月5日

ホームページ <http://www.kiokuisan.com/>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)
Email hironaga8689@gmail.com
郵便振替口座 00110-5-292881
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

I. 12.12 オンライン・シンポジウムのお知らせ	1
II. 国際平和博物館バーチャル/オンライン会議の報告	2
III. 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトの報告	3
IV. 第2回理事会の報告	4
V. 各部会報告 資料庫部会から(体験記等のマスキング作業/寄贈書籍)	4
VI. 【関連行事】今年オンラインで一昭和女子大戦後史PJ 秋桜祭展示	5
《資料》日本被団協の声明「核兵器禁止条約 50 カ国の批准書の寄託にあたって」	6

核兵器禁止条約を50カ国が批准し、来年1月22日に発効します。核兵器を非人道的で違法だとする初めての国際条約が動き出すことになりました。「人道的アプローチ」を採用した画期的な条約であり、これを機に、安全保障の意味が「国家中心」から「人間中心」に大きく転換することになります。同条約は、2017年7月、国連の会議で122カ国が賛成して採択されたものであり、これらの国々が批准国に参加することは必至です。

今や、「核兵器のない世界」の実現に向け、それぞれの立場で役割を發揮すべき時が来ています。「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」は日本被団協と連帯して、原爆被害の実相と被爆者のたたかい(運動)の記録を、人類が共有すべき記憶遺産として保存し継承し発信していく役割を担う決意を、改めて表明します。特に核保有国の市民への働きかけや呼びかけが求められています。そのため、世界に発信し続ける「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター」を東京に設立するべく、被爆の記憶を未来につなぐ活動を広げるとともに、設立募金活動をさらに推進していきます。

なお、日本被団協の「声明」を末尾に掲載します。

I. 12.12「被爆75年/基本懇答申40年 オンライン・シンポジウム」のお知らせ

今年是被爆75年・戦後75年という戦後史の節目にもかかわらず、コロナ禍のもと、その検証が各方面ですすめられているとはいいがたい状況です。

この12月11日は、原爆被爆者対策基本問題懇談会(「基本懇」)が原爆・戦争被害の「受忍」を強いる「意見」を厚生大臣(当時)に答申して40年。原爆被害への国家補償を拒みそれを制度化した「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」の制定(1994.12)

から26年にあたります。

こうした戦後史の節目にあたり、近年、若手の研究者や学生らによって行われてきた、日本被団協の運動資料による研究・教育実践を共有し、会が所蔵する史資料の意味と可能性、継承のあり方をさぐるオンライン・シンポジウムを開催することになりました。

テーマは「被爆者運動の足跡に向き合う—日本被団協資料の意義と活用の可能性—」

開催日時は、12月12日（土）13：30～16：00

オンライン（ZOOM）による参加を基本としますが、オンライン参加が困難な方のために、プラザエフ（四ツ谷駅麴町口）5階会議室に若干の席も用意します。遠方の場合は、お孫さんや、日頃ともに活動しているお近くの若い方に、少人数で視聴できる場を設けていただけるよう協力をお願いしてみるなど、工夫しながらぜひ多数ご参加ください。

シンポジウムの詳細・申し込み方法は、同封ちらしをご参照ください。なお、必ず事前に申し込みをしてくださるようお願いいたします。

II. 国際平和博物館バーチャル/オンライン会議の報告

新型コロナウイルスのパンデミックを受け、予定を変更し急遽9月16日～20日に開催された標記会議が、新しく難しい運営を乗り切って、成功裏に終了しました。

当会からは、「THE ATOMIC BOMBING EXPOSED」（原爆被害の証言）、「Voices Moved the World」（声が世界を動かした）の2本のビデオ映像を英語字幕付きで、標記会議へ提出し参加しました。元INMP（国際平和博物館ネットワーク）代表のDr. Peter からコメントが寄せられ、この会議を運営された山根和代理事よりお知らせをいただきました。そのコメントの要旨を以下に転載します。

『中でも印象的で、記憶に残る感動的な発表は、岩佐さんの証言です。岩佐さんの話は、どの平和博物館にも展示されるべきだと思います。また、伊藤和久さんの「ノーモア・ヒバクシャ・プロジェクト」（「声が世界を動かした」）の映像も興味深かったです。どちらのビデオも、被団協がノーベル平和賞に再び（必要ならば毎年）ノミネートされるべきだと思わせてくれました。この2つのビデオは、ノミネートの有力な要素として提出すべきだと思います。』

ほかに各国から100件ほどがビデオ映像で参加したとのことですが、どのような感想が寄せられているのか知りたいところです。また世界的なコロナ禍のもと、緊急にこの会議をオンラインで立ち上げ運営されましたが、おそらく多くの成果を得ることができたのではないかと推察いたします。これらの成果を今後どのように活かしていくのか、興味が尽きません。なお、ビデオ映像の編集を日青協の棚田一論氏・後藤うらら氏、英語字幕翻訳を横田和彦氏・漆原牧久氏・Paul Malone 氏、ビデオ映像の紹介英訳を松本恵理奈氏（ボ

ランティア・スタッフ) など、多くの方々のご協力を得ることができました。ここに感謝を申し上げます。

Ⅲ. 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトの報告

1. 2020/11/29 (日) オンライン証言・交流会を開催します



未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト
オンライン証言・交流会

1945年8月9日、長崎で10歳の時に被爆した上野知子さん(しらさぎ会)からお話を聞きます。

8月9日の午前11時頃、私は母と母の兄の木の下の下で逃げた。その時、母は川が流れている男の子三人が川で溺れているのを助けた。その時、母は川が流れている男の子三人が川で溺れているのを助けた。その時、母は川が流れている男の子三人が川で溺れているのを助けた。

2018年5月、ユフゾアで開催した証言交流会の様子です。

開催日：2020年11月29日(日) 14:00～(1時間半～2時間程度)
ツール：zoom
※事前にPCまたはスマホにzoomアプリのダウンロードをお願いします
対象：15名(先着順)
申し込み：
件名を「11/29 オンライン証言・交流会参加希望」として、お名前、連絡先を明記の上、E-mail: hironaga8689@gmail.com まで
申し込みいただいた方にはzoomの接続用URLをご連絡いたします
企画・運営：
特定非営利活動法人ノーマ・セバシヤ記憶遺産を継承する会
「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」
未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトについては<https://keishoblog.com/>をご覧ください！
全国にこの取り組みを広げるボランティア募集中！ぜひ地元で取り組みを！

今回の企画は「夏休み親子企画」に参加した若いお母さんが中心になって準備・運営しています。被爆者の方から直接お話を聞くことができる時間はあまり残っていません。一方通行の講演にならないように、後半はお話を聞いて心に残ったこと、考えたことなどを交流します。そのため定員も少なめに設定しています。親子での参加もOK！どなたでも参加いただけます。1945年8月9日、長崎で10歳の時に被爆した上野知子さん(しらさぎ会)からお話を聞きます。

開催日：2020年11月29日(日) 14:00～(1時間半～2時間程度)

ツール：会議ソフト ZOOM を使用します。

※事前に PC またはスマホに ZOOM アプリのダウンロードをお願いします

定員：15名(先着順)

申し込み方法：

件名を「11/29 オンライン証言・交流会参加希望」として、お名前、連絡先を明記の上、E-mail: hironaga8689@gmail.com まで

申し込みいただいた方には ZOOM の接続用 URL と PASS をご連絡いたします。

企画・運営：「未来につなぐ被爆の記憶」プロジェクト

2. 2020年1月に町田でオンライン証言・交流会の開催を準備中

東京都町田市で長年にわたり町友会と協力し、体験記集「被爆のこころ」シリーズの発行や講演会などを開催してきた「町友会とともに生きる会」との共催で、オンライン証言・交流会の開催に向けて準備を進めています。詳しい日程などが決まりましたら継承ブログ(<http://keishoblog.com/>)などでご案内します。

3. 全国に取り組みを広げるために

全国にこの取り組みを広げるボランティア募集中！ぜひ地元で取り組みを！

ボランティアのお問い合わせも参加申し込みと同じメールアドレスまでご連絡ください。また、取り組みを財政面で支えるために寄付金も募集中です！

IV. 第2回理事会の報告

10月24日(土)午後1時半から4時まで、ZOOMによるオンライン会議として開催しました。

審議したテーマは二つです。一つは「戦後史の節目にあたり、『被爆75年/基本懇答申40年シンポジウム』をオンラインで開催、12月12日を予定し関係者と協議する」ことを確認しました。その趣旨は、〔別稿I〕お知らせのとおり。もう一つは「来期以降の理事会のあり方について」出席者全員が発言し、「継承センター設立を実現し、次世代が担う理事会のあり方に徐々にシフトしていくため、年齢構成の見直しやさまざまな分野からの参画を追求し視野を広げて検討していく」ことを共有しました。

報告事項として、①岩佐幹三・前代表理事の死去(9月7日)に伴い、オンラインによる臨時理事会を9月25日開催、新代表理事として中澤正夫氏を選任し9月28日付で登記手続きを完了した旨報告、②未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト、8月の親子企画「げんばくってなあ〜に？」の報告や今後の被爆証言・交流企画などオンラインによる取り組みの報告、③国際平和博物館バーチャル/オンライン会議(9・16~20)に、この会から「岩佐幹三さんの被爆証言」と「声が世界を動かした」(被爆者のたたかひの歩み)のビデオ映像を英語字幕付きでエントリーし視聴者に感動を与えた旨報告がありました。

V. 【各部会報告】資料庫部会から

◆ 被爆者の会発行の手記・体験記のマスクング作業について

デジタル・アーカイブの構築に向けて、まず、各都道府県・地域の被爆者の会が発行してきた手記・体験記から公開していく予定です。そのためには、著作権や個人情報にかかわる最小限のマスクングを行う必要があります。

今年度はその作業をすすめるため、マニュアルを作成し、パソコンも用意したのですが、新型コロナの影響で集まっていた作業ができず、しばらく頓挫していました。

このたび日本生協連のご協力により、オンラインでの在宅作業として行えるよう、また作業にあたる協力者も募っていただくなど、条件が整備されつつあります。

◆ ご寄贈ありがとうございました

・ 斉藤久仁子さん(呉市・賛助会員)より、「核兵器の危機を訴える文学者の声明」署名者=世話人編『日本の原爆文学』全15巻/生口十朗『緋の紋章』・『蟬時雨』・『白い夏』/栗原貞子『ヒロシマというとき』・『栗原貞子詩集』・『反核詩集 核なき明日への祈りをこめて』など、計24冊

・ 井手澄子さん(東京・正会員)より、世界平和集会広島世話人会編『8時15分一原爆 広島10年の記録一』(1955) / 原水爆禁止世界大会日本準備会『原爆許すまじ 原水爆禁止世界大会の記録』(1955)

- ・ 一般社団法人 東友会より、『生命もて ここに証す—2020 年度版—』 3 冊
- ・ 神奈川県原爆被災者の会より、井上與志男著『横浜市の被爆者援護措置施行の推移 (附) 反核運動・浜友の会活動の歴史』(1998) 2 冊
- ・ 調布市原爆被害者の会 (調友会) より、『75 年目の広島・長崎を語る—被爆から現在、そして未来へ』 3 冊
- ・ 京都「被爆 2 世・3 世の会」より、『語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心 上巻』

日本被団協をつうじて、以下の書籍をご寄贈いただきました。

- ・ 青森県原爆被害者の会 結成六〇周年記念誌『未来につなぐ「原爆はいらない」1960-2020』 3 冊
- ・ 埼玉県原爆被害者協議会 (しらさぎ会) 『原爆ゆるすまじ 第 3 集—未来への伝言』 2 冊
- ・ 原爆被害者相談員の会 『ヒバクチャーとともに生きる— 第 37 号』

みなさまからの貴重な資料のご寄贈に、心よりお礼申し上げます。

VI. 【関連行事】

昭和女子大学「戦後史プロジェクト」—3 年目の秋桜祭展示はオンラインで—

2013 年から当会の被爆者運動史料の整理に協力してこられた昭和女子大学の松田忍先生と学生らによる「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト—被団協関連文書—」(2018 年 5 月発足) も 3 年目に入っています。今年はコロナ禍で大学における対面での研究・教育が著しく制約されるなか、他大学の学生・院生も含む 14 人のプロジェクトメンバーは、オンラインで 20 回以上ものミーティングを重ねてきました。

初年度の「被爆者に『なる』」、2 年度の「被爆者の『発見』」につづけて、今年のテーマは「『被爆者の生きてきた歴史』展」。4 年間のプロジェクトの集大成となる来年の「光葉博物館」での展示をにらみながら、被爆者運動史料ととりくむなかで見てきた「気づき」に焦点があてられてきています。

例年 11 月上旬に大学で開催されてきた学園祭「秋桜祭」は、今年は 11 月 21 日(土)・22 日(日)の両日、オンラインでの開催となりました。

プロジェクトの展示は、以下のサイトで見られるようになります。

<https://slabo.swu.ac.jp/projects/2018-sengosi>

3 年間にわたるプロジェクトの研究成果を、ぜひ多数のみなさんにご覧いただければと思います。

以上